

情熱 責任
真摯 覚悟

埼玉県議会議員

宇田川ゆきお 県政報告

埼玉県議会

平成29年1月4日発行 埼玉県議会自由民主党議員団 宇田川ゆきお県政事務所
〒340-0801 埼玉県八潮市八條393 Tel. 048-932-4055 Fax. 048-932-6205

県政に関するご意見・ご要望をお寄せください。

大山しのぶ市長 & 宇田川ゆきお県議 ふるさと八潮のまちづくり意見交換

大山しのぶ八潮市長と宇田川ゆきお県議会議員の意見交換が実現。行政を執行する大山市長は日常の市政運営多忙のなか、スケジュール調整をいただき、久しぶりの意見交換となりました。二人三脚という言葉のとおり、市長と県議の二人で息を合わせながら「ふるさと八潮」のまちづくりに全力で取り組む勢いがひしひしと感じられた1時間でした。



子ども医療費負担ゼロ実現

宇田川県議

本日はお忙しい中、ありがとうございます。大山市長の県議時代のアドバイスを受けながら県庁へ通っていますが、県政を動かすことの困難さを感じているところです。私は、当初から子育て環境の整備と言うことでフィンランドのネウボラにヒントを得てワンストップサービスの総合的な子育てシステムを提言していますが、大山市長の英断で「子供医療費負担ゼロ」の実現を聞き、うれしく思います。

大山市長

これは、市長選の時にお約束したことで、市内小中学校の児童・生徒の通院に関して助成を拡大するということです。平成29年4月から自己負担が廃止されることになり、0歳から15歳までは医療費の負担がゼロになります。全体として八潮市の子育て環境が向上することになると考えています。



やしお子育てほっとステーションの設立

宇田川県議

これもまた、子育て環境に関わることですが「やしお子育てほっとステーション」が八潮駅前に誕生したということですが、このほっとステーションとはどんなものなのか、少し説明していただければありがたいのですが？

大山市長

これは、子育ての親子が気軽に集える「子育てひろば」や地域の子育て情報を紹介する「子育てコーディネーター」のサービス、子育て経験のあるボランティアが訪問し、育児などを一緒に行う「ホームスタート」の拠点となるように「やしお子育てほっとステーション」を八潮駅前に開設したものです。「子育ての悩みや不安、地域の情報や経験を聞く」「一緒に食事を作ったり、買い物に行く」など、「八潮版ネウボラ」を整備していきたいと思っています。



パーキングエリアとスマートIC

宇田川県議

私も市長も八潮生まれの八潮育ちですから、八潮市の移り変わりの認識は同じだと思います。首都高速道路が開通し、つくばエクスプレスが開業すると南部の発展は勢いを増しています。都心との距離が一挙に縮まり魅力あるまちとして注目されてきていますが、さらに都市整備を進めながら北部にも目を向けたいところですがいかがでしょうか。

大山市長

その通りですね。北部には外環道が通っていて東埼玉道路も部分的に開通しています。今後NEXCO・市・県が一体となって、現在計画されている八潮パーキングエリアを実現し、そこから市内へ乗り降り可能なスマートインターを併設し、人と車の流れが変われば、地域経済にも大きな変化が見込まれます。

安心安全なまちづくり

宇田川県議

私は、市政でも県政でも最も大切なことは、市民・県民の安心安全をどうやって担っていくかだという認識を持っています。先日も大山市長と共に知事を訪問し、警察官の増員と八潮警察署の新設を陳情してまいりましたが、人口規模でいえば八潮市より少ない人口の市でも警察があるわけですから何とか実現したいものです。道路の安全についても県道や橋の架け替えは県政の優先順位を高めることに全力を尽くしたいと思っています。

大山市長

つくばエクスプレスや首都高によって、外国人を含め人の往来が激しくなっている現状において、犯罪に対する抑止力として警察の存在は絶対に必要なものと言えます。つまり警察・行政・市民が協力し、防犯のまちづくりを行っていかねばならないと思っています。また、道路については舗装や交通安全施設の整備を積極的に進め、安全で住みよいまちを実現してまいりたいと思っています。いずれにしても市政と県政が互いに協力し、前進していくことが重要です。



宇田川ゆきお県議

12月定例会一般質問



平成28年12月14日、12月定例会県議会において宇田川県議が登壇し一般質問。新たな産業団地創出に向けた支援、東埼玉道路による地域活性化、ふるさと創造資金、成長分野への企業の参入支援、救急医療体制の充実、彩の国プラチナキッズ事業、放課後児童クラブの受け入れ枠拡大、東京葛西用水の親水化、県道草加八潮三郷線の整備、柳之宮橋の架け換えなど10項目について尋ねました。

放課後児童クラブ枠拡大

【質問】 小学校入学後の児童を放課後に預かる放課後児童クラブは子育て環境を整備するという意味から重要。保育所と学童保育の時間的、場所的な連携が必要になる。需要に応じて受け入れ枠を拡大するための取り組みは？

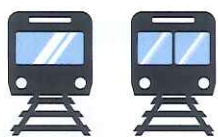
【回答】 市町村が計画的にクラブの整備を推進できるように整備費の補助を行っている。特に待機児童の多い市とピアリングを実施し、意見交換や情報交換をしながら市町村と協力して枠の拡大を図っていく。



東埼玉道路による地域活性化

【質問】 事業効果を数値化する費用便益費（B/Cピーバイシー）を示しながら東埼玉道路沿線開発について八潮市内のパーキングエリア・スマートインターならびに地下鉄八号線の延伸について。

【回答】 八潮市の意思を尊重し、まずはパーキングエリア整備の進捗状況を見極め、上里スマートインターチェンジなどの整備経験を生かして技術的助言や関係機関との調整支援を行う。地下鉄八号線は事業性確保のための検討を加え、沿線市町と連携して延伸の具体化に向けて引き続き取り組んでいく。



救急医療体制の充実について

【質問】 高齢化が急速に進み救急搬送人員は増加の一途を辿っている。県は様々な救急医療情報システムを導入しているが、受け入れ可能な医療機関を探すためのスマートフォンなどの導入の見通しと、どれだけ救急搬送の改善に効果が認められたのかを問う。

【回答】 受入先が決まらない救急搬送患者を原則として断らずに受け入れる病院指定を開始し、平成28年4月には12病院となり全県をカバー。また、スマートフォンのメリットを生かし、救急搬送の迅速化・円滑化を目指し、救急医療体制の充実をはかるため来年2月から試験運用。4月から本格稼働。



ご挨拶

謹んで年頭のご祝辞を申し上げます。県議会議員1年生として市議会議員の経験を活かしながらチャレンジ精神を発揮しています。県政全体の調整を進めながら、軸足は八潮市に置き八潮市を全力で主張する姿勢を貫き通しています。少子高齢化が進み、子育て環境の整備と高齢化対策の充実が現状の課題であり、総合的なワンストップサービスのシステムを導入していかなければならないと思っております。これからも切磋琢磨してまいります所存です。

埼玉県議会議員 **宇田川 幸夫**

新たな産業団地創出への支援

【質問】 戦後税制の原点であるシャウブ勧告と税制制度の現状に触れ、産業団地創出に向けた市町村への支援について展開。企業誘致と固定資産税の増収による自治経営の在り方を示しながら市町村への支援の基本的な考え方を問う。

【回答】 田園都市づくり課の「産業地スピードアップ調整窓口」で工業・流通系の産業基盤づくりを支援。その結果、三郷インター南部地区で約8.4ヘクタールを市街化区域に編入し産業基盤づくりを推進。八潮市での検討を含め地域経済の活性化と市町村の財政力強化につながる産業基盤づくりを積極的に支援。



東京葛西用水の親水化

今後の取り組みについての質問に対し「貴重な水辺空間として地域の方々の憩いの場になっていることを認識し、さらに冬期における通水の調整を行い清流の復活を支援。ワーキングチームなどの要望を伺い親水化の調整を進める。」との回答。

県道草加八潮三郷線の整備

進捗状況と今後の見通しについての質問に対し「現在八條小橋から県道平方東京線までの640m区間の整備を進めており、用地買収完了と八條小橋の架け換え工事が完了。平成29年度には640m区間全体整備完了」との回答。

柳之宮橋の架け換えについて

今後のスケジュールについての質問に対し「これまでに6.3キロメートルの整備完了。残る930メートルを県と市が準備中。柳之宮橋は、国土交通省と協議・設計を重ね、工事途中の迂回路として上流に仮橋の設置について土地の確保をし、工事に着手していく」との回答。